

概覽

軍務局

練習本部

七六二

練習航海行動報告(第三回完)

村松

明治三十九年十月四日九州西岸筑島附近航行中電令
依豫定到達地之變更是五日朝長崎港軍艦錨地
入泊滞泊五日以間本艦ハ炭水補充兵員患者ノ
送院等致シ可カラサル事項ヲ處理シ練習尉官ニハ電
信船小笠原丸長崎造船所ノ見學及茂木地方ニ遠足
ヲ行ハシ十月九日長崎発左十日鎮海灣ニ着ス

十月十日

土曜

鎮海灣

天候晴 風向北西 風力三

鎮海灣入港後四等卒進級試験及練習指導教育ヲ施行
シ練習尉官ニテ内筒砲射撃ヲ行ハシ且艦船回轉

村松

0613

圈、横尺修正法、水雷故障ノ原因ニ就キ説明ヲ與ヘ水雷
調整ヲ實習セシム

十一月十日

日曜

鎮海湾

天候晴

風向北東

風力三

午前鎮海湾内吹島附近ニ出勤シ練習尉官ヲシテ十
五枚砲射撃ヲ行ハシメ又員ニハ方隊部署教育ヲ科ス
又練習尉官ノ一部ニ艦船面轉圈ニ付説明ヲ與フ

十一月十二日

月曜

鎮海湾

天候風向北東

風力三

在泊第三艦隊ノ射的施行、都合依リ湾外ニ於テ十二所
砲射撃ヲ行ハントシ午前湾外ニ出勤セシメ風波高ク射
撃ニ適セス依テ巨濟島北西側ニ向ヒ下海面ニ於テ更
ニ其射撃ヲ行ハントシ嶺島至リシモ波浪高ク故ニ其

目的ヲ達スルニ克ハズ該島附近ニ返泊ス

練習尉官ニ航路標識、海圖改補心得、兵備品經理法ヲ説明シ水雷調整ヲ実習セシム

十一月十三日 大曜 秋島

十一月十三日

大曜

秋島

天候 曇 風向北東 風力八

風力毫モ減衰セズ既ニ當地ニ於テ射撃ヲ行フノ望ナキヲ以テ午前七時廿分更ニ鎮海灣ニ向ヒ投錨ス

艦巨濟島ノ東側ニ進ムヤ北東風其威ヲ猛ニ潮風艦ノ前部ヲ蔽イ速カク減殺セラレリ

影々午後二時四十分鎮海灣漆川水道ニ入泊ス

練習尉官ニ航路標識、海圖改補心得ヲ説明シ其他ハ凡テ自習セシム

十一月十四日

水曜 鎮海灣

水曜

十一月十四日

水曜

鎮海灣

右舷直員端舟軍士裝操練ヲ行ヒ練習尉官ニ對シテ
運用術試験ヲ行フ

十一月十五日 木曜

鎮海灣

天候 晴

風向 北

風力 二乃至一

午前八時出港シ明珠灣沖ニ出動練習尉官ノ十二所
砲射撃ヲ行ヒ午後六時二十三分濤川水道ニ返泊ス
練習尉官ニ對シ航海術試験ヲ行フ

十一月十六日 金曜

鎮海灣

天候 晴

風向

北々西 東北東 風力 二乃至二

兵員ニ練習艤教育ヲ施シ練習尉官ニ對シテ水雷術
試験ヲ行フ

十一月十七日 土曜

鎮海灣

天候晴 風向北東 風力〇乃至一

午前八時揚錨大光伊島附近ニ出勤兵員ノ體肥
射撃ヲ施行シ午後五時十三分添川水道ニ碇泊ス
練習尉官ニ對シ砲術試驗ヲ行フ

十月十八日 日曜

鎮海灣

天候晴 風向北 風力〇乃至二

練習尉官ノ機關術試驗ヲ行フ

十月十九日 月曜

鎮海灣

天候晴 風向北 風力〇乃至二

右舷直陸戰隊操練ヲ施行シ陸上ニ差遣セシメ練
習尉官ノ半数ノ之ニ參加シ野外勤務ヲ實習セシム

十月廿日 火曜

天候晴

西

三乃至四

海

軍

其航直陸戰隊操練施行陸上差遣之練習尉
官半数之以上参加之野外勤務之實習之又機関部
勤務之實習也此午後三時廿分灣針於テ自差ノ
一部ヲ測定シ横須賀ニ向テ

十月廿一日 水曜

正午位置

北緯廿度四十五分四十秒

東經百廿九度四十分廿秒

天候 晴 風向 北東 風力 一乃至三

九州西岸ヲ航行シ兵員六砲術練習ヲ教育ラ施
行ス

練習尉官ノ偏針儀實地使用法艦位測定法大砲
操練實地訓練士三所砲四十七家砲操練ノ要線電
信機關部勤務ヲ實習セシム

十月廿二日 水曜

正午位置

北緯廿二度廿分

東經百廿三度四十六分

天候晴 風向北西 風力二乃至三

土佐中ノ航行ニ兵員ヲ練習ヲ施ス

練習尉官ノ大砲操練實地訓練十三所四十七密砲

操練小隊教練無線電通信及機關部勤務ヲ実

習セシム

十一月廿三日 金曜

北緯廿四度〇分

正午位置

東經百廿七度十六分

遠州灘及相模灘ヲ航行シ遙探式分隊講話等ヲ施

行又練習尉官人員調査行ニ部ニ機關部勤務ヲ實習セシム

十月廿四日 土曜

天候晴 風向北々東 風力三乃至一

午前十時横須賀外之遠之第三海堡附近より鎮守
府差遣之軍樂隊を迎へし五十分横須賀軍
港第三区に投錨ス

横須賀入港後十月廿六日ヲ以テ坂本教育本部長臨
時檢閲ヲ受ケ茲ニ本艦ハ練習航海ヲ結了ス

本年八月日英軍港ヲ参シ九月十日遠航途ニ乾キ本日
之ヲ結了スル至ルマテ約百日航海日數ニ比シ比較的

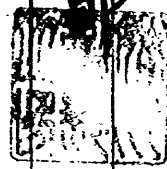
航程ノ長カリシト天候常ニ善良ナリシトハ大ニ豫定作
業ノ施行ニ便ナラシメ豫期練習教程ヲ概ニ達成ス

ルヲ得カリ

右報告候也

明治三十九年十月廿六日於横須賀港

姉川艦長花房祐四郎



海軍大臣齋藤實殿

0621

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2

2

0622

閣覽後軍務局長シ

大臣 海

次官

軍務部

教育部

水路部

軍令部

練習航海行動報告(英田)

練習航海行動報告(英田)

明治三十九年八月初旬本艦ハ練習航海ニ対スル諸

般ノ準備ヲ完シ全月十四日ニ至ル迄練習射官

三十五名ヲ兼修セシム

八月廿日吳大出港徳山灣ニ回航第三種煉炭四百

噸ヲ搭載シ全廿三日出港豊後水道ヲ至テ廿四日

横須賀ニ着ス

八月廿日横須賀ニ於テ英炭四百五十噸和炭五百

五十噸ヲ搭載シ全廿一日ニ至ルマテ練習射官六十

名ヲ兼修シ全廿九日品海ニ回航九月五日更ニ横須賀

三回艦ヲ補給シ全九日兼修教育本艦長崎

三回艦ヲ補給シ全九日兼修教育本艦長崎

0623

検閲ヲ受ケ翌十日伊東元師島村練習艦隊司令
 官ノ東艦ヲ受ケ午前十時横須賀ノ電光ノ布達
 詳島三向ノ遠航ニ上ル
 是日按鐘以東本艦乗員ニ對シテ公專ラ諸般ノ基本
 的教育訓練ヲ施シ練習尉官ニ對シテハ準備教育ト
 シテ艦内諸部内規等ノ熟知部署ノ習熟ヲ事ラト
 之碇泊中ハ主トシテ水陸防禦面ノ視察軍事ニ関
 スル工廠工場ノ見学ヲ主トシテ横須賀ニ於テ総員乗艦
 ノ終ニ待テ便宜時課ノ教習ニ當ラシメテ而シテ又
 於テ旧筑波石見工廠徳山ニ於テ煉炭製造
 東京ニ於テ砲兵工廠板橋火薬製造此
 部赤羽造兵廠沖電氣工場浅草電氣
 横須賀ニ於テル香取及我利諸艦長浦島
 工廠

無線電信研究所海軍工廠砲術練習所水雷營
等々其見學せし主十九モナリ

九月十日 月曜

天候降雨 風向東カ三

起程地 野島崎沖

北緯三十四度五十分三秒
東經百三十九度五分三秒

午前十時廿五方横須賀出港時激雨發東之展望
十方ヲ入午後三時起程地より南八十九度東定針之
大圍航路ヲ執リ布哇群島之向ヲ銃隊操練防水操
練之行ヒ練習尉官ハ艦位測定法隠風論、彙形
水雷方解銃隊各員教練汽罐、桌火汽鑲法及機
関目誌能注法ヲ説明実習セシム

0625

九月十日

火曜

天候曇時降雨

風向東北

力二乃至一

正午推測位置

北緯三十五度二分十二秒

東經百四十四度十七分三十六秒

午後一時十分南八十七度東之垂針此日降雨時々来り

天測、実習を行つた能ハズ

銃隊操練、砲術水雷測練習子教育防火操練

課之練習尉官三海上氣象學、大平洋航路、築形

水雷弁解大砲操練、銃隊教練、當道賜校勤務

要領汽鐘、火汽釀法、友機、関日誌、能注法、説

明実習を行つ

九月十二日

水曜

天候半晴

風向東力

午前一至四

0626

正午実測位置

北緯三十五度五十九秒

東経百四十九度四十分十五秒

日出頃ヨリホシク晴正午頃ヨリ風力稍増加し驟雨ヲ
伴ヒ来リ後曇然シ共天測ノ実習ヲ行フヲ得タリ

午後一時南八十六度東ニ変針

右隊部署教育、総員乗艇配置操練ヲ課シ練習
尉官ニ天測象形ノ雷分解銃隊操練、十五枚砲
操練、主機暇先機法及運転法、説明実習ヲ行フ

九月十三日

水曜

天候 曇

風向 東北東 カ 三乃至五

正午実測位置

北緯三十四度五十分四十四秒

東経百五十四度四十八分五十二秒

針路南八十六度東

各分隊練習早教育、総員体操課に練習尉官六
天測、錨作業、銃隊各回教練、十五枚砲操練、主機
暖機法及運轉法、説明、実習ヲ行フ

九月十四日

金曜

天候

曇、雨

風向

東南東力四乃至八

正午位置

実測 北緯三十四度二十七分七秒
推測 東経百五十九度三十八分四十二秒

日出頃より風力増加し晴雨計下降し始メ三〇〇五吋に至ル
日没頃風力最も強ク其力七乃至八艦ノ傾針左右十
度内外に達ス横須賀出發以來天候豫期之及シ天
測、原羽目意、如クナラズ依テヤヒリ南下シテ好晴地ニ至ラ
ント試ニ午後一時南七十三度東ニ変針ス
練習部教育ヲ施シ練習尉官ハ天測及氣象學外

0628

雷縦舵調教並雷錘作業機械運転及焚火法ノ
説明実習ヲ行フ

九月十五日 土曜

天候晴 風向南力五乃至六

正午実測位置

北緯三十三度廿七分
東経百六十三度廿七分

午前十時半頃ヨリ風向益々南ニ偏シ其力減少シ黎明
ニ至リ天晴ル晴雨計ハ最後ニ時ヨリ五時間ニシテ元
九五時ナリ而シテ夕刻ニ至リ天候全ク快晴トナリ風力
三減少ス

午後零時三十分南八十七度東ニ渡針シ又大圈航路ヲ執
ル艦内大掃除ヲ行ヒ練習尉官ハ昼間夜間ノ天測十
五把握操練、無線電信、銃隊各佃教練機械実

0629

地運転及焚火法ノ説明実習ヲ行フ

九月十六日 日曜

天候晴 風向南力三

正午実測位置

北緯卅三度十分四十四秒
東経百六十七度四十二分十秒

正午南八十三度東之兼針天候全ク快晴ニ級ス
方隊桌椅、被服桌椅及各方隊講話ヲ施行シ練習
尉官ニ昼間夜間天測汽機汽罐及補機ノ説明
ヲ行フ

九月十七日 月曜

天候晴 風向南々東力二三

正午実測位置

北緯卅一度五十八分卅三秒
東経百七十三度廿九分四十四秒

午後一時南七十九度東、度針

戰鬥操練、防火操練ヲ施行シ、勅語奉讀及遙拝式ヲ
行ヒ、練習尉官ニハ昼間夜間、天測、算、形、分、雷、方、解、十、五
梅砲操練、機、汽、罐、及、補、機、ノ、説、明、実、習、ヲ、行、フ

九月十八日

火曜

天候晴、風向 南力ニカ至一

北緯廿度四十分廿二秒

正午實測位置

東經百七十五度五十七分五十六秒

針路南七十九度東、午後十一時、分北緯廿九度五十九分

廿九分、地ニ於テ至度百八十度、地ヲ航過ス

溺者救助操練、總員体操ヲ行フ、練習尉官ニハ昼間

夜間、天測、算、形、分、雷、方、解、十、五、梅、砲、操、練

銃隊各員教練、機關諸管裝置、説明実習ヲ

行フ

九月十八日

火曜

日ヲ改メテ更ニ十日トナス

天候晴

風向

東南東

力一カ至二

正午実測位置

北緯廿八度五十三分六秒
西経百七十八度二分八秒

午前六時艦ハシツトウキ^ト島北西方約百廿哩ノ地矣^ト
達セシラ^ト以テ南五十一度東^トニ航針^トニ該島ノ一見ヲ試^トシ^ト
トセリ

武器莫^ト檢陸戰隊操練ヲ施行シ練習尉官ニ八層^ト
夜間ノ天測、魚形^トの雷分^ト解^トハ樂^ト總^ト電信^ト十五梅^ト抱^ト操^ト
練ノ說明^ト実習ヲ行フ

午後三時四十五分右舷艦首^トニ莫^ト之^ト當^トリ四橋^トハ烟突^トノ矢^ト流^ト
船ヲ認^トム其狀^ト恰^トモ北東^ト行^トスモ^ト如^トシ午後四時廿分ニ至^トリ

誤汽船ノ北方ニ近ク「モッドウエー」島ヲ認ム而シテ漸次
 航進スルニ從ヒ誤汽船ハ「モッドウエー」島ウエルスハーボ
 ア港口南側ノ珊瑚礁上ニ擱坐スラ知リ今五時十五
 分ニ至リ誤船ヨリ掲揚セル難船信号ヲ認メ誤船ハ本
 艦ト曰テ同シク横濱ニ出發シ「ホノル」ニ向テ所ノ汽船
 モンゴリアナルヲ知ル
 五時四十五分ウエルス港口ヨリ西進北西約二哩ニ達スニテ
 水深廿七尋ノ地ニ碇泊シ分隊長一名ヲ以テ其擱坐ノ
 状況、損害ノ程度兼客ノ安否及船船長ノ希望
 ヲ調査セシム
 午後九時出港 將校帰艦ニ後命ヲ斷リ依リハモゴ
 リヤハ十六日夜十時頃誤島ニ於テ桂燈ノ單方燈
 依リ港口ニ接近、隆距離ヲ誤測シ遂ニ港口南側ノ礁

0633

上ニ搭坐セルモノ如ク船長ポーターノ言フ所ニ船首船底ニ
 於テニ尋ノ浅水アルノ外四圍ノ水深ナク瀉水僅少ニ
 ニテ損傷輕微ナリ故ニ若シ前部ヲ輕メ後方ヨリ曳
 卸セハ容易ニ離礁スルコトヲ得可ク且ツ其附近ハツ
 危險物ナキヲ以テ之レカ救助ニ関シ充分ノ助力ヲ得リ
 又乗客陸上ニ在リテ安全ナルヲ以テ頼フ所ハ一日モ早
 ク只ハ船体ノ引卸方ニアルノミト
 右ニ依リ明朝救護ニ関シ充分ノ協議ヲ遂ク可キヲ信
 歸ニ同地ニ復白セリ

九月十九日 水曜

天候晴 風向北東力ニ乃至三

午歲五時十五分ヨリ錨地ヲウエル港口南側珊瑚礁壁
 西方約五海里ニ移シ直ニ本艦トヨクゴリヤノ向ニ

0634

於ケル水深及モングリヤノ四圍水深ヲ測量シ傍ラ
 ヲモゴリヤニ就キ更ニ詳細ナル状況ヲ調査シタルニ
 該船ハ英版海圖第ニ一六九号ノ「サントウ島」上
 サントウ島同車ヨリ南八十五度西四哩四三鏈ノ地
 坐シ水深八尋ト記入セル地卓ト珊瑚礁壁トノ間ニ於
 テ船首東北ニ向イ右舷ニ傾斜スルコト約五度前
 部第三ホルトドニ浸水十二呎アリ排水唧筒ニ依リ一
 旬約二呎減水ヲ見目下船員及布疋移住ノ白木
 舟働者ヲ使役シ全カヲ尽クシテ敵部ノ諸ヤ荷物ヲ投
 棄シ專ラソ敵部ヲ輕ムルニ務メ又絶エス機械ヲ使用
 シテ後退ヲ務メツルアリ而シテ本艦ヨリモゴリヤ間ニ於
 ケル海底ハ海圖所載ト大差ナリ又一ツノ危険物ヲ發
 見セズ又モングリヤノ四圍ハ敵部右舷第三ホルトド下

海
 軍

二方より浅く深く二如尋左舷及対側之於テ三ノ左尋
 ヲ測定セル外四圍ハ悉ク四如尋乃至七ノ如尋ニシテ在リ
 船体ハ前部第三ホルト下ニ於テ凹渠状海底ニ嵌坐
 之末夕外板ヲ破ツテ礁頭ノ船体内ニ突入セル形跡ナキ
 ラシテ水櫃ハ出束得ル丈ケノ曳卸作業ヲ試ムルニ決シ
 午後零時廿方ヨリ錨地ヲモゴリヤノ西方約六百ヤ
 ードノ地ニ移シモゴリヤヨリ七時スルワイヤヲ出し
 其端ニ水櫃用五吋スケルワイヤニ糸ヲ鎖住シ又其
 端ニホーサーヲ取り之ヲ以テスケルワイヤヲ我艦尾ニ引
 入レトシ船員ヲ以テ全カヲ比作業ニ従事中海底
 悪潮流稍強ク加フルニ地東風三乃至ニ達シ波浪
 従ツテ高リ艇ノ操縦作業進捗意ノ如クナラズ不為メニ
 該事業ハ中途ニテ日没トナリ中止スルノ止ム可カラズ

0636

ルニ至レリ

午後六時廿分頃ヨリ諸艇ヲ收容シホーサー端ニ浮標ヲ
附シ午後八時鐘地ヲト方安全ノ地ニ移シ仮泊セリ

九月廿日 木曜

天候晴 午後稍不徳 凡向北東カ三至五

午前五時ヨリ鐘地ヲモゴリヤノ西方ニ於テ昨日ノ日鐘地
ニ移シ引続キホーサー取入レ方ニ掛リシモ浮標ハ潮流ノ
為メ流出セシ其所在分明ナラス或ハ探海ヲ行ヒ或ハ
「モゴリヤ」側「スナルワイヤ」ヨリ之カ投索ヲ試ミタルモ
海底ノ凹凸不勳険悪ニシテ作業又立意ノ如クナラス
午後二時^{五十分}分ニ至リ漸ク「ホーサー」ヲ探出し之レヲ
本艦^監尾ヨリ引スレ「スナルワイヤ」取込メ掛リシモ「スナル
ルワイヤ」ハ深ク「ワイヤ」間ニ嵌レサシモ之レヲ伸縮スル

0637

又曰ハス作也兼佳
 行中遊こつおハ止、切掛トナリ付
 又曰ハス作也兼佳
 状況右ノ如クニシテ更ニ之レカ作兼ヲ繰返サハ或ハ高
 兩三日ヲ要スルヤモ計リ難ク而テ他ニ救護用或索
 ノ用ヲ可キモノナシ而シテ本艦状態ハ或テ航海ニ對
 シ航海用貯炭ハ約六百廿六噸ニシテ豫定所要額
 對シ僅ニ百噸内外即チ日量ヲ余スニヨリキス更ニ
 此作兼ヲ継続スル爲メカハル錐地不安ノ地ニ在リ
 ルニハ一日高數十噸ヲ消費スルノ要ナリ結局更ニ數日
 尙ノ在泊ヲ許サルニ至レリ却テコングリヤク状態ヲ見ル
 ニ其漏水傾斜甚クサリ若シ西方ヨリスル強風ニ遭遇
 スルニアラズンバ決シテ船体及人命ヲ危怖ニ墮セシムル
 ヲ認メス又兩三日中ニ東着スヘキ救助船ニ三ノアルアリ

加フルニ乗客ト陸上ニテ比較的完備セル家屋ニ於
テ無事救助船ノ来着ヲ待テツアルヲ確認セルヲ以テ
遺憾ナカラシム旨ヲ船長ニ角ニ該作業ヲ断念シ午後
七時四十分揚錨ホリルニ向テ出港セリ

「モリヤ」救助ニ関シ艦内全員之方リタルヲ此兩日
間別ニ兵員ヲ操練ヲ行ハス又練習射官ハ專ラ端艇指
揮之任ニ當ラシメ本目ニ至リ一部ハ信号術、彈丸、象
形、雷方解ノ説明実習ヲ行フ

九月廿一日 金曜

天候 晴 風向 東北東力四乃至五

正午 實測位置 北緯 共 度 四十七分 廿九秒
西経 百七十五度 廿分 二秒

正午 南八十一度 東ニ定針 冰日ヨリ 漸長 緯度ニ去航路ヲ

0639

執ル

端舟軍装操練ヲ施行シ、練習尉官ハ昼間、夜間ノ天
測、莫形小雷有、鮮、無線電信、波、没、船、泛、奉、及、実
航法、艦船轉舵法、機関諸官装装置、説明、実習ヲ
行フ

九月廿二日

土曜

天候晴

風向 東北東力四乃至三

正午 実測位置

北緯廿七度廿九秒
西経百七十度廿九秒

針路南八十一度東

練習尉官ハ昼間、夜間ノ天測、十五枚砲操練、水陸

操、舵装置、シヤフケング、バヤリング等ノ練習、作成、説

明、実習ヲ行フ

0640

九月廿三日

日曜

天候 晴

風向 東北東力三カ至一

正午実測位置

北緯 廿六度三分六秒

西経 百六十七度四十九分廿一秒

針路南八十一度東

右隊練習隊教育總員体操ヲ行ヒ練習射官ニハ
昼間夜間ノ天測十五冊砲操練ノ算形ノ雷方解
樂線電信シマフセシゲマヤリニグキ線圖作成記
明山実習ヲ行フ

九月廿四日

月曜

天候 晴

風向 東北東力二カ至一

正午実測位置

北緯 廿四度四十分十秒

西経 百六十三度五十七分五十六秒

0641

針路南九十八度東

遙様式、被服、食糧、溺者救助操練、及手旗信号
習古三行、練習尉官三、昼間、夜間、天測機、炭指
圧器、撮取、実馬力計算法、説明、実習三行

九月廿五日

火曜

天候晴

風向

北東力 一乃至二
三乃至四

正午実測位置

北緯 廿三度 四十九分 廿九秒
西経 百六十度 四分 五十分

午前六時南四十五度東ニ航針ニシムカイ水道ニ向

午後六時該水道ヲ航過シ針路七十七度東速力

八節トシテホリシ港外ニ向フ

練習尉官三、昼間、夜間、天測、実形、の雷故障原因、

十五時砲操練、機炭指圧器撮取、実馬力計算

0642

法ノ詔明実習ヲ行フ

九月廿六日

水曜

天候晴 風向北東力ニ乃至三

午前十時廿五分、外港に達し右舷錨ヲ投下す
帝國領事、米國海軍鎮守府ヨリ訪向使、在函同胞
歓迎委員等ノ來訪ヲ受ケ米國々旗ニ對シ廿一発米
國海軍鎮守府司令長官ブリーヤ將ニ對シ十三発ノ礼
砲ヲ發シ各々數ノ答砲ヲ受ケ

午前十時廿分、先集内ノ請求ニ應ジ錨地ヲ外港打
鐘浮標北側ニ錨地ヲ移シ海軍司令長官ヲ訪向ス
使習尉官ニ、莫形水雷方解及築線電信ノ詔明実
習ヲ行フ

九月廿七日、豫テ海軍鎮守府司令長官ヨリ海軍用棧橋

使用ノ記諾ヲ得水先業内者ヲ兼セテ午前九時揚陸
 内港ニ入り第一海軍棧橋ニ横付ケテス昇テ司令長官
 ブリーチ将ノ来訪ヲ受テテ退艦ニ際シテハ其辞退ニ依
 リ礼砲ヲ者畧セリ此日又政廳ニ縣知事カーター
 氏ヲ訪問ス
 翌廿八日縣知事カーター氏ノ来訪ヲ受テ豫メ鎮守
 村司令長官ノ記諾ヲ得其退艦ニ際シ礼砲十七発ス
 是ヨリ艦内ニ於テハ專ラ艦内諸部手入ニ從事シ練習
 尉官ハ無線義差測定法、無線電信、直將校勤
 務要領、魚形水雷艇舵調製器、水雷戰術、沈没
 船之浮法、機關急急及置、機關部通信装置機
 械調整法等ノ説明實習ヲ行ヒ四カールロー及附近耕
 地ノ觀察ヲナサシム

0644

九月廿九日十月一日函曰以テ艦員一同在留日外人
歓迎ヲ受リ

当地商人ニ於テ無烟炭ノ貯蔵ナキヲ以テ鎮守府司
令長官ノ厚意ニ依リ相与テ代價ヲ支拂セタル上該
鎮守府貯蔵ノポトホシタス山灰五百五十噸先ニ商人
ヨリ濠洲炭六百噸ヲ搭載シ今五日鎮守府ノ請求
ニ依リ港長ニ依テ軍艦錨地ニ繫留換ス
左六日在ホルル紳士淑女ヲ招待シカウトホムラ僅ス
茲ニ行動報告第一回ヲ終ルニ臨ミ殊ニ艦内ノ衛生状
況可良ニシテ各健全ニ其任務ノ遂行ニ努メツル所
コトヲ報告スルノ先榮ヲ有ス

右報告候也

明治三十九年十月十七日於ホル

海

軍

海軍大臣 齋藤 實 殿

姉川艦長 花房 祐 四 郎



0646

電

四四五

ナニ

0647

軍務局

電

各

各

練習航海行動報告第三回

明治廿九年九月廿六日布哇ホノル港に到着し内港に碇を泊
スルコト二週間其間炭水ヲ補充シ本艦兼負ハ素ク艦
内諸部ノ手ニ當ラシメ練習尉官ニ天測其他諸科ノ
練習及陸軍各方面ノ觀察ヲ行ハシ

十月八日 月曜

天候 晴 風向 南東力 〇乃至二

正午実測位置

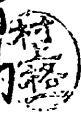
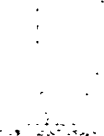
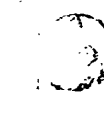
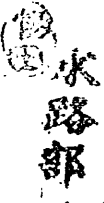
北緯廿度十一分

西経百五十七度廿九分廿秒

本日帝國總領事有藤幹本艦ヲ公訪ス其退艦ニ際シ

禮砲九發

水路部



午前九時三十分群島巡航、目的ヲ以テ出港、カイシ水導
経テ布哇島ヒ向テ
合戦準備、戰鬥操練、砲臺操練、信号音古、体操
ヲ行ヒ、練習尉官ニ海面伸縮、騰寫法及、築形水雷ヲ説
明シ十五時砲操練ヲ行ハシム

十月九日 火曜

天候晴風向

東南東

午前八時十分カイ港ニ達ス、布哇島在留日本人ヨリ熱
誠ニ歡迎ヲ受ケ、午後総員、半数陸上歡迎會ニ列
席ス

練習尉官ニ水雷戰術及彈丸火藥説明ヲ行フ

十月十日 水曜

天候晴風向北、東力 〇乃至二

午後六時廿分出港半速回転三十北東へ向テ航進
入練習尉官ニ無線電信、莫形水雷ノ調整ニ故障原
因大畧ヲ説明ス

十月十日 水曜

天候晴 風向北東カニ

正午実測位置

北緯廿度八分
西経百五十五度廿三分廿秒

午前八時日比港ヨリ北東約八十哩、地底ニ達シ内筒砲
射撃ヲ行フ此日備西ノウチリアリ艦ノ傾斜十五六度ニ達
シ射撃手ニ有効ナル実習ヲナスヲ得タリ

日没ニ及ニテ射撃ヲ止メ午後六時半速回転三十トシ「マウ
島」カニ山港ニ向フ

練習尉官ニ昼夜間ノ天測、内筒砲射撃ヲ監督内筒砲

射撃ヲ行ハシ操縦装置ヲ説明ス

十月十二日 金曜

天候晴 時々驟雨 風向

東北東 三乃至四
北東 四乃至五

午前九時五十分カフル港沖合ニ達シ同港ニ向テ艀針
公十一時十三分カフル港ノ北方沖合大理所ニ停泊ス在留同
胞ヨリ熱誠ニ歡迎ヲ受ケタルモ風波高シ交通不便ナル
ヲ以テ之ヲ辞シ船長及停校ニ名式場ニ臨ミ其厚意ヲ
謝シ午後六時十五分揚錨トシ港ニ向テ
練習尉官ニ當直停校勤務要領、船舶電航法及艇
艇調整器、説明ヲ行フ

十月十三日 土曜

天候晴 風向 北東 三乃至五

カイシ水道ヲ經由シ午前九時ホル港外ニ達シ水路嚮導

0650

者ヲ兼セ海軍鎮守府ヨリ無線電信ニ依リ莫ク海軍中頭
ニ繋留ス入港ニ先タテ米國々旗ニ對シ禮砲廿一発ヲ同
數ニ答砲ヲ受リ

十月十四日

日曜

天候晴

風向北東

カヨ乃至一

分隊講話ヲ行ヒ半舷人員ヲシテ龍驤筑波及比叡兼組病
死者ノ墓地ニ参拜セシム

十月十五日

月曜

天候晴

風向北東

カヨ乃至一

総員ヲ以テ石炭四百四十三噸ヲ搭載ス
練習尉官ニ無線電信ノ方位盤使用法、水雷戰術、信子術
及禮砲ニ關スル説明ヲ行フ

十月十六日

火曜

0651

天候晴 風向

北東 力一乃至三

西航直算ヲ以テ石炭三百二十噸ヲ搭載ス

練習尉官ニ無線電信ノ方位盤使用法、水雷戰術及

禮砲ニ関スル説明ヲ行ヒ昼間天測ヲ實習セシム

十月十七日 水曜

天候晴 風向

不定 力〇乃至一

清水糧食ヲ塔載シ海軍鎮守府准士官及在留日本人

紳士ノ夕メ茶話會ヲ催フス

十月十八日 水曜

天候晴

風向

北東 力一乃至三

正午実測位置

北緯廿度十分十五秒

西經百五十八度二分三秒

在留日本人ノ多数見送ヲ受テ水雷路嚮導者ヲ備ヘ

0652

外ニ出テオウ「島」西側ニ航進シ自差ヲ測定シ時辰
ヲホルト「ト」真時ニ改テ午後五時北緯廿度廿分廿秒西経百
五十八度廿二分廿秒地ヲ起程地トシ南七十四度西ニ定針ス
防水扉閉鎖防漏蓋出方操練ヲ行フ
練習尉官十五名砲操練ヲ行ヒ防水操練ヲ見學セシム

十月十九日

金曜

天候晴 風向

東北東 カニ乃至三

正午実測位置

北緯廿度七分五十三秒

西経百六十五度十七分四十四秒

風波右舷後部ヨリ波來スルヲ以テ艦少シク轉動シ十乃至九度
ノ傾斜ヲ示ス

砲臺操練、銃隊操練、傳子替古等ヲ行ヒ練習尉官三名
間夜間、天測彙形水雷者直將校初務要領諸作世來ヲ

0653

実習説明之又徒手教練ヲ行ハシム

十月廿日 土曜

天候晴 風向 東北東 カ三乃至四

正午実測位置

北緯廿度廿六分廿六秒
西経百六十六度四十分四秒

艦轆轉稍烈シリ傾斜十五乃至十六度ニ及ブ上甲板に塔載
石炭一部ヲ炭庫内ニ移ス
練習尉官ニ八層間夜間天測及十五枚砲操練ヲ行ハシメ操
舵装置ヲ説明ス

十月廿一日 日曜

天候晴 風向 東北東 カ四乃至五

正午実測位置

北緯廿度九分十五秒
西経百七十一度十五分五十秒

0654

正午南八十度西ニ転針ス

分隊員檢艦内員檢ヲ行ヒ徒手教練ヲ科ス

練習尉官ハ昼間夜間天測及徒手教練ヲ實習セシム

十月廿二日 月曜

天候晴 風向東北東 力四乃至二

正午実測位置

北緯廿度三分十六秒

東経百七十五度廿分五十三秒

正午北八十七度西ニ転針ス午後ヨリ艦ノ轉動大ニ減リス

戰鬥操練砲臺操練部署教練信号音古ヲ行ヒ練習尉官ハ昼間夜間天測徒手教練ヲ行ハシメ縦舵調致ス

器無線電信莫形水雷ニ就テ説明ヲ與ヘ偏針儀使用

法ヲ實習セシム

十月廿三日 火曜

0655

天候晴

風向

東北東

力ニ

正午実測位置

北緯廿度五十分十一秒

西至百七十九度四十分五十二秒

午後一時四十分北緯廿度五十六分十一秒、地ニ於テ百八十度、子

午線ヲ航過ス

端舟軍裝陸戰隊操練ヲ行ヒ、コングラ展ス

練習尉官ニハ昼間夜間ノ天側及十五榴砲操練徒手教練

ヲ行ハシム

十月廿五日

水曜

天候晴

風向北東

力ニ乃至三

正午実測位置

北緯廿度四十九分十五秒

東至百七十五度四十七分廿六秒

日ヲ改メテ廿五日トス

0656

合戦準備、戰鬥操練、砲臺操練、水雷艇防禦ヲ行
ヒテ「スリースル」ヲライスルヲ展ス
練習尉官ニ昼間夜間天測偏針儀使用法、実習ヲ
ナサシメ、当直將校勤務要領、横尺修正法、三式水雷
銃ヲ説明シテ了

十月廿六日 金曜

天候晴 風向北東 カニカ至三

正午実測位置

北緯廿二度廿九分四秒
東經百七十五度三分廿八秒

午後一時北緯廿五度西經廿針ス
練習班教育ヲ行ヒ練習尉官ニニ昼夜天測ヲナサシメ、偏針
儀使用法十五枚砲操練、徒手教練ヲ実習セシメ、艦船
曳航法及魚形水雷ニ就テ説明シテ了

0657

十月廿七日 土曜

天候 晴 風向 東力一乃至二

正午実測位置

北緯廿三度廿分廿三秒
東経百六十六度廿分五十八秒

正午北八十二度西三針

溺者救助操練ヲ行ヒ練習尉官ニハ昼夜ノ天測、十五梅砲
操練、各佃教練ヲ実習セシメ沈没船邊揚法ヲ説明シ
救助艇操練ヲ見學セシム

十月廿八日 日曜

天候 晴 風向 北々東

西北西 一乃至二

正午実測位置

北緯廿四度十五分〇秒
東経百六十二度五分四十五秒

正午北八十度西三針

0658

分隊員換、勅諭奉讀、分隊講話、敬禮、次々執務、修
正、行七練習尉官、昼夜、天測ヲ海員習セム

十月廿九日 月曜

北緯廿五度五十分
東經百五十二度五十分

天候 晴 風向

西北西 一乃至二
北東西 二乃至三

午後一時北八十一度西三軸針入

陸戦隊員三銃隊操練ヲ科シ又火災操練ヲ行フ

練習尉官、昼夜、天測、十五柁砲操練、徒午教練、尾

栓分解結合法、真形水雷分解結合法ヲ実習セシメ方位

盤使用法及水雷戦術ヲ説明ス

十月廿日 火曜

天候 晴 風向

北々西 力二乃至三
北々東

正午実測位置

北緯廿六度零分五十分
東經百五十二度四十分

毎 日

正午北七十九度ニ転針ス

練習砲教育及体操ヲ行フ

練習尉官ハ昼夜、天測、十五枚砲操練、徒手教練與

形水雷介解結合法ヲ実習セシメ方位盤使用法及水雷

戦術ヲ説明ス

十月廿一日 水曜

天候 晴 月向 東北東
南西 力 二乃至四
三乃至四

午後二時北七十六度西ニ転針ス

合戦準備、戰鬥操練、信子北旨右、防大操練、部署教

練ヲ行フ

練習尉官昼夜、天測、偏針儀使用法徒手教練、四十七

密砲操練、及尾栓介解結合法、魚形水雷介解結合法

ヲ実習セシメ方位盤使用法及水雷戦術ヲ説明ス

0660

十一月一日 木曜

天候 晴 凡向 南西 四ノ至五
北西 二ノ至三

正午実測位置

北緯廿七度廿八分四十七秒
東経百四十三度五十分廿七秒

船小笠原群島ニ接近シ天候ノ模様上父島列島ヲ
認ムル利ナルヲ信シ午前八時ヨリ南八十度西ニ航針ニ北
島ニ向テ午後零時二十分ニ至リ父島ヲ航船約一ノ
認メ
鳩島北島間水道ヲ航過シ午後五時父島列島ノ北
西側ニ於テ自差ヲ検測シ終テ午後五時北六十五度西ニ定
針ニ大隅海峡ニ向テ

上甲板塔載、石炭全部ヲ炭庫投ム
練習尉官ハ昼夜ノ天測四十七密砲練及尾栓分解結合
法、奥形水雷分解結合法ヲ実習セテ方位盤使用法及

一
二

0661

水雷戦術ヲ説明ス

十一月二日 金曜

天候晴 風向北西 カニ乃至三

正午実測位置

北緯廿八度廿四分十秒

東経百三十八度廿三分六秒

漸ク秋冷ヲ覺エ本日ヨリ上白下紺服ヲ用ス

午前八時熱性患者突然舷窓ヨリ海中ニ投ス直ニ之ヲ救助ス

正午北六十五度西 磁針ス

練習尉官ハ昼夜ノ天測偏針儀使用法十五冊砲術仰旋回機ノ分解結合法ヲ実習セシメ早式與形水雷及錨作業ヲ説明ス

十一月三日 土曜

0662

天候 晴 風向 北々東 二乃至五

正午 冥測位置

北緯 廿九度五十分九秒

東經 百三十三度五十分三十分

本日ヨリ冬季日課ヲ施行シ遙拝式施行シ 御真影ヲ
拜シ正午皇禮砲ヲ發ス

午後零時廿分北五十大度西ニ航針ス

練習尉官ハ夜間ノ天測ヲ眞習セシム

十月四日 日曜

天候 晴 風向 北々東 カ 五乃至三

午前二時燈臺 島燈光ヲ認メ大隅海峡ニ入ル午前七時佐多

岬ヲ通過シ明日朝ヲ以テ佐世保ニ入港ス午首無線電信

ヲ以テ海軍大臣、吳及佐世保鎮守府長官ニ打電シ午前

九時廿分ヨリ半速回航セシム以テ進航中午後八時甑島北

0663

西方ニ於テ佐世保軍港ニ百斯萬發生消毒警戒中萬止
ムヲ得サルノ外ハ長崎ニ寄港ス可キ肯港岐ヲ以シ海軍次官
ノ電令ヲ領シ微速長崎沖ニ向フ

練習隊教育ヲ行フ

練習尉官ハ艦位測定法ト隊教練ヲ実習セシメ水雷
調整及故障ノ原因ヲ就テ説明ヲ與フ

十一月五日 月曜

午前四時廿分伊王島燈光ヲ航正横前ニ真ニ認メ五時ヨリ
艀針長崎ニ向ヒ全七時原速回艀四十二ト九時長崎港
軍艦鋪地ニ双錨泊ス投錨ニ先キ出羽第二艦隊司令長官
ニ對シ禮砲十五発ニ千代田ヨリ答砲ヲ受ク

練習尉官ハ縱舵調整器ヲ就テ説明ヲ與メ艦隊運動
ヲ実習セシム

0664

横須賀出港後雨三日陰雨ニ遭遇シ又ホリル出港後
多ク凡波ノタメ艦ノ轉軸ヲ免レザリシモ僅モ操練及練習ニ
阻害ヲ與フルニ至ラス往復兩途共驟雨スヲ稀有ニシテ降
雨甚ク級途ノ如キ一箇ノ降雨ヲ見ス只陰雲ノ爲メ夕刻夫
測ヲ妨ケラレシコト僅カニ二回天測実習ハ實ニ豫期以上ノ
好機ヲ得徒テ其練習ノ効果顯著ナリト認ム
茲ニ本艦ハ豫定行動ノ殆ト大部カヲ結了シ且當港ニ於テ
炭水ヲ補充シ了ラシ豫定行動ニ從ヒ鎮海灣ニ至リ艦
砲射撃及試験ヲ結了シタル後概テ豫定ノ時機ニ於テ
東京灣ニ級到セトス

明治三十九年十月五日於長崎港

姉川艦長花房祐四郎



0665

海軍大臣齋藤實殿

海

軍

0666

姉川丸航行ニ伴フ經費

(俸給及諸給) 金額

三十八年度中

六、八一七

五。九十日分

(清韓露領沿岸加俸)

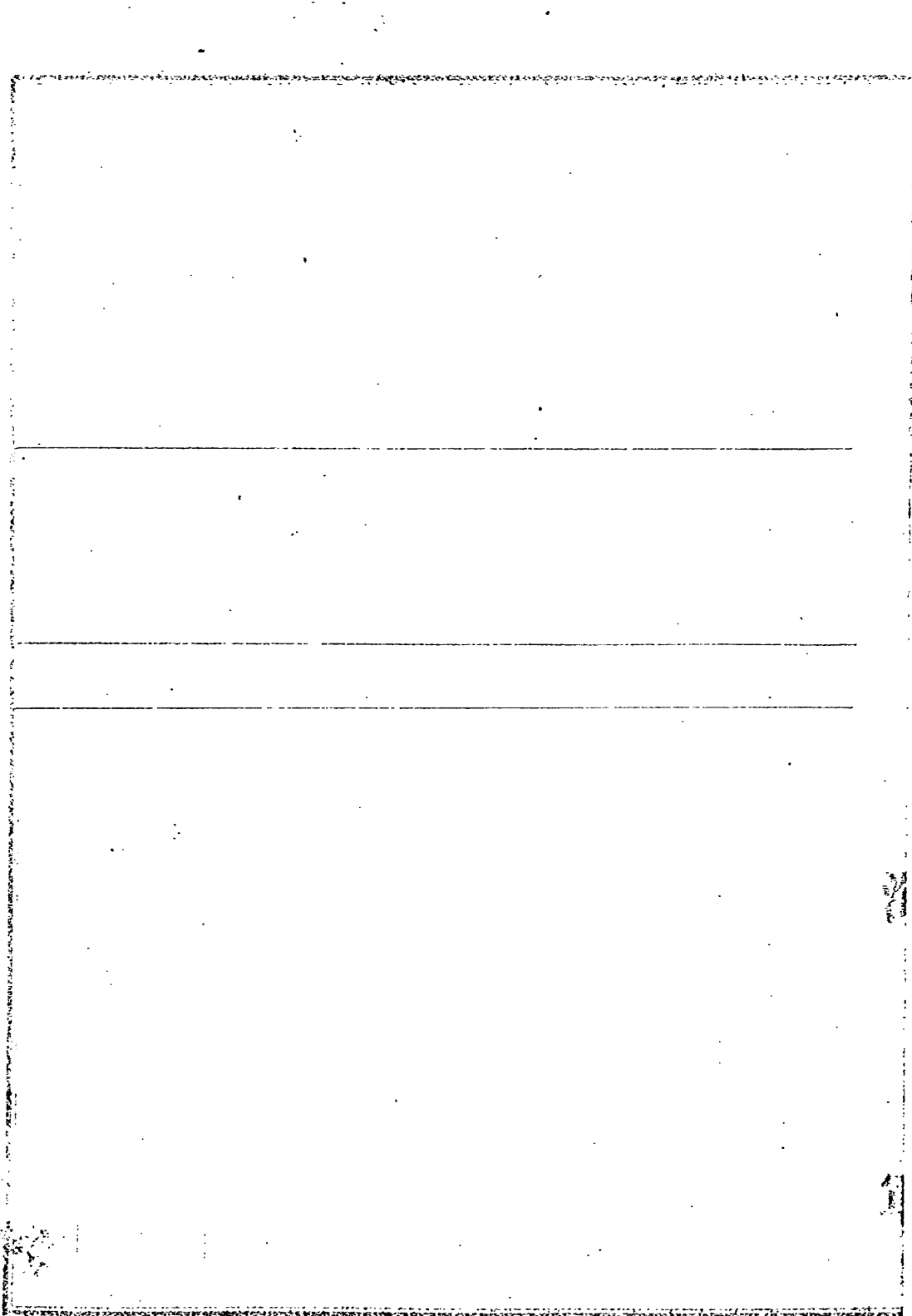
三十九年度中

一、六四五

。百五十三日分



0667



0668

旅諸船

及裝巡洋艦姉川丸中支尉練習ノ為メ巡航積

計	管	午	背	背
三十八年度	一八三・五三五。	三〇・六九九。	二二・三一一。	二二・三一一。
三十九年度	二五・一八一。	七二・一三二。	二八・三三三。	六〇・九一八。
計	四三・五六三。	一〇二・八二一。	五〇・六四四。	八三・二二九。



Table with multiple columns and rows, mostly blank.

洋
書

0670

經理用扇



三十八年十二月十五日

糧食費



中少尉、師川丸、臨時乗船セメント、運賃

一 食九千六百七十四圓九角 三十八年度

一 食九千五百八十七圓九角 三十九年度

0671

第二部長



部員



東條

海

軍

仰りて中少尉の年取せしむるに

能く考らるる

宜らざるを七月十日に於て

令を以て子爵の年取せしむるに

付て之を中少尉の年取せしむるに

仰りて之を中少尉の年取せしむるに

仰りて之を中少尉の年取せしむるに

仰りて之を中少尉の年取せしむるに

仰りて之を中少尉の年取せしむるに

仰りて之を中少尉の年取せしむるに

(複製)

0672

電 報 送 達 紙

艦本二第一八號ニ

局 着		局			發		名氏所居人信受	
取扱者	受信	午前	午後	付	第一	局	報	伊藤 幸次 伊藤 幸次
	午後	十時	十分	分	ハ			
		字			日	號	局	報
		市川都立丸 姉川代 棧屋也			七 月 九 日		第一 ハ 號	
約七十二噸ノ入也		要領 吉岡 幸次 市川都立丸 姉川代 棧屋也			十 七 二 ト 一 三 三		定 指	
					事 記		注 意 他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタリモハ此由ヲ符 箋シ直チ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ	

12-22

0673

藤 遊 齋

部員



電 集

貴院巡艦番力八ノ下ニ書ク一紙也
ノ事考 渡野 坂野 了志

三子字士子林一ノ事門 如 矣

婦 門 九 持 集 也

船本第一只記

海 軍

0674

拂

供覽



教育本部



第一部長



部員

海



軍

軍務局長



局員



陸軍省

呉艦様 爲すは二張ノ一ノ切川丸程
号ノ一第一回 津和野 祝海流
母香港ノ在 祝海流ノ在 祝海流ノ在
祝海流ノ在 祝海流ノ在 祝海流ノ在

三十九年二月九日

平塚の長

呉艦様

二月九日發行
所三一五



(複製)

0675

軍務局

教育本部

海軍機密第 四二號ノ一一

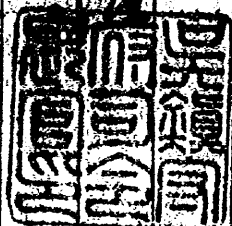
上申

海軍

別紙、通柳川丸艦長より上申有之候交在
此段上申付也

明治三十九年二月十三日

長崎支隊司令官 山内 兼 支隊長



海軍大臣 齋藤 實 殿

通、右ノ電信ノ以テ、少撥付金ノ申
付也

海軍

四二號ノ一一

0676

司令長官

参謀長

参謀長

吉澤

参謀 木村

副官

福

二月廿日

神州機密第一一號

中

第一期練習航海航路意見上申

吳鎮棧機密第四二号、四、修、研一。辨ヲ以テ、研川丸第一期練習航海隊定行動表進達致候處、右ノ官房機密第四二号ニ、基キ指定巡航区域、內於テ短期間ヲ以テ出来得可キ、大、大ノ効果ヲ收メ、可成好天候地方巡航ノ日、的ヲ以テ其行動ヲ豫定セル、次第ニ候、然ルニ本艦乗員ハ新ニ配乗ノ者夥多シテ、遠航ニ就クノ前、幾多ノ訓練ヲ要スルモノ有之、練習尉官ニ對シテ、先近距離航海ヲテ相當ノ訓練ヲ此ハ、先後十晝夜以上遠航ヲ行フ、二回ヲ行フ、得ハ練習ノ効果多カル可ク、將又第一期乃ハ、今初度ノ遠航ニ在ラハ、本艦ノ未歷上、炭水消費ノ模

機密第四二號ノハ

毎

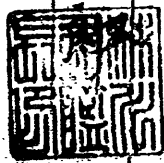
五

0677

操洋上ニ於テハ 艦ノ釣合及各種ノ性癖ヲ實験スルノ要アリ
 従テ最初ヨリ甚シク 航路ヲ遠サカルコトナシテ 其補給艀泊
 地ヲ得ラルヘキ 航路ヲ樞定スルノ至者ナルト長距離航海ヲ志
 ノ利益ナルトニ依リ 渠ニ別紙ノ通り行動ヲ豫定シ之ヲ相比
 照セバ長距離航海一圃増加ニ依リ天剛山實習豫定日
 數ニ於テ七日ヲ利シ 縛習効果更ニ多クナリト信ス
 古意見上申儀也

明治三十九年二月十一日 於吳港

好川丸艦長花房祐四



吳鎮守府司令長官山内萬壽信殿

0678

姉川丸練習航海豫定行動表

日次	起程地	到達地	航程
一	横濱	吳	五七。
三			
七	吳		
九		佐世保	四六。
一四	佐世保		
一八		大沽	八〇。
二〇	大沽		
二一		芝罘	二〇五。
二三	芝罘	大連湾	九。
二八	大連		
三二		森鶴	九六。

海
軍

0679

下

一二	一〇七	一〇四	九一	八一	七三	六三	五七	五六	四五	四三	三九	三七
品川		佐世保		新嘉坡		佐世保		鎮海湾		元山		舞鶴
横須賀	品川		佐世保		新嘉坡		佐世保		鎮海湾		元山	
二〇	七五		二四三		二四三		一六		三九		四八	
				炭水消費、都令依、厦門、香港、寄港								

0680

海軍

								一三〇。德山	二二六 横須賀
								一〇〇。	
								吳山	二二八
								德山	
								五三〇。	
								計九九八五	
								備考連々十厘	

0681

海

軍務局

三月六日

教育本部

海軍部

第... 五

司...

濟

參謀長

...

...

...

副官

...

...

...

0682

海軍大臣齋藤實殿

一軍艦船川第一期練習航海豫定行動表

右別紙之通、類製及進達候也

明治廿九年三月十七日

於長崎

海軍艦長花房祐四



軍艦妙川第一期練習航海豫定行動表

到達月日	地名	投錨月日	航程	豫定作業
三月廿四日前	廈門	三月廿六日前	一〇七	
三月廿七日午後	香港	三月廿一日午前	三一	炭水補充、自差修正
四月七日午前	見 <small>小笠原</small>	四月八日午後	一五九	
三月廿二日前	佐世保	三月廿三日午後	八三	機材、燃料等入給、係着機材、燃料等、炭水補充
三月廿六日前	大連灣	三月廿日午後	六一	要塞見世
五月三日午後	鎮海湾	五月十三日午前	六六	内筒射撃、艇射撃、回艇、回艇
三月十五日午前	舞鶴	三月十九日午前	三七	艦隊運動、炭水糧食補充
三月廿一日午前	元山津	三月廿五日正午	四六一	沿岸測量、野外演習
三月廿八日午後	小樽	六月二日正午	六八	自差修正、終結後差検測
			二三	炭水補充、炭水糧食補充

0683

六月五日正午	函館	六月六日午前	七	試験、糧食補充
六月六日午後	大湊	六月十日午前	六〇〇	試験 諸国、天文台、水防部、南極探検 見送、炭水糧食補充
六月十二日午後	東京湾	六月廿一日午前	五二七	採炭所見学
六月廿三日正午	徳山	六月廿五日午前	九二	
六月廿五日午後	呉			

計 八〇六。

(備考) 〇印ハ郵便受取所ヲ示ス

0684

大臣 奏

供覽

軍務局

教育本部

海軍大臣

各 班

村格

辨機密第一二六號

海軍

練習艦姉川五月十日發定變更御届
 今般練習中姉川丸機密第一。辨練習航海豫定
 行動ノ弄ハ口敷キニ電報御認許ニ依リ遂行中
 知目下日本海及中土北西岸沿岸ニ教習浮流
 水雷ノ現在ニ一教次ノ報告。接シテ、就テ、
 カニ萬一ノ顧慮シ先以テ今因ハ日本海航ヲ、
 項ノ通リ變更致テ余此段御用仕候也

明治三十九年四月十七日 於佐世保港

姉川艦長花房祐四



海軍大臣 奏
 藤 實 殿

海軍大臣

藤 實

四月十日

0686

五月十三日以後行動豫定變更表

到達月日 地名 枚鑑月日

記事

五月十四日午前	佐世保	五月十三日午前	内筒砲射撃、艦砲射撃 回轉圖測定、自差修整
五月廿四日午後	小樽	五月廿九日正午	艦隊運動、炭水糧食補充 自差修整、経線儀差検閲 炭水補充、炭礦製鋼所見學
六月二日午後	函館	六月二日午前	試験、糧食補充
六月八日午後	東京湾	六月十七日午前	試験 諸工場、天文台、水路部、商船所 校見學
六月十八日午後	伊勢湾	六月廿一日午前	野外演習
六月廿三日午後	徳山	六月廿五日午前	煉炭製造所見學
六月廿五日午後	呉		

田覽後軍務局庚

附二〇七

供覽

海軍局

人事局 小倉

海軍部

軍令

付格

本艦隊是行動變更御届

敷第六四號の基キ本艦隊是行動變更御届紙通り變更

更ニ練習士官ノ練習ハ東京湾ニ於テ終結致被

候條此段御届仕候也

明治三十九年六月二日 於大湊

第十一號 中東

姉川艦長海軍大臣花房祐四郎

海軍大臣齋藤實殿

自ニ練習士官ノ學術試驗ハ六月五日ヲ以テ終了最ニ

提出致候豫定行動表中ニ於テ伊勢湾ハ寄港ニ主ニ本

艦隊ニ於テ練習士官ノ充テラレタリ有テ練習士官為

ルニ於テ係無クニ於テ東京湾在泊中ノ諸見學ヲ

一五

消シク見上ハ何時解散、御座有之候モ差支与
之候條右列申候也

漢 一

0689

海軍

六月三日以降妙川線定行動表

投錨月日 地名 投錨月日 摘 西女

六月三日 函館 六月六日 鎌倉 士官進新詳談

左 八日 品川 左 十九日 水戸 新 高 船 野 柳 天 文 堂 無
見 歴 元 日 春 季 層 習

左 十九日 横須賀 左 廿日 春季層習

左 廿一日 伊勢國 神 往 渡 左 廿四日 左

左 廿六日 吳

0690

軍務局

教育本部

軍令部

州第 三二七 九二

行動隊定変更市居

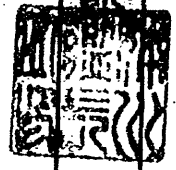
官房第 二二四七号 劇令 依本月十九日以後

船行節豫定別 通変更教候 株本

此後市居候也

明治三十九年六月十七日於 品川

妙川艦長海軍大臣花房梧郎



海軍大臣齋藤實致

省

物

平

森

平

廣

松

廣

松

廣

海軍

0691

軍艦柳川行動豫定表

到着時日	地名	抜錨時日
六月十九日午前	呂川	六月十九日午前
六月二十日午前	横須賀	六月二十日午前
六月二十一日午前	硯世保	六月二十四日午前
六月二十二日午前	吳	

摘要

0692

親板

榮

供覽

局

教育本部

第 三 九 五 號

濟

進 達

格

一、軍艦坊川芳二期練忍航海中
損毀船隻出沒及後行勅諭定表
右進達任候也

明治二十九年八月廿八日 檢給整表

坊川艦長花房松太郎

長

海軍大臣高島武夫 啟

第一部長 部員

海 軍

0693

軍艦妙川第二回練習航海中横須賀出發
以後、行童隊是左表、如シ

地名	投錨月日	拔錨月日	記
横須賀		九月十日	午前十時投錨ノ豫定
ホノル	九月廿六日	十月十六日	ホノル、在泊中約一週間ヨリテ 群島巡視ノ豫定
佐世保	十月四日	十月八日	
鎮海湾	十月九日	十月十九日	鎮海湾發給中練習尉官 試發並、飛砲射撃ヲ行フ
東京湾	十月廿三日		

海軍

0694

龍報

高

第三八四

丸

次官

軍務局

軍令部

進 達

一 横須賀員者後行動日程

右別紙ノ用ニ相是ノ候未此般進達仕候也

明治三十九年()月廿四日於横須賀

坪川艦長花房祐四郎

海軍大臣 齋藤 實殿

各班

海 軍

0695

横須賀著港後行動日程 軍艦妙川

八月廿四日金横須賀着

廿五日土

廿六日日

廿七日月

廿八日火

廿九日水 品川回艦

三十日木

三十一日金

九月一日土

二日日

三日月

四日火

品川泊

横須賀泊

右炭積入

海軍

五日水 横須賀回艦

六日木

石炭積入

七日金

横須賀泊

八日土

船内諸整頓

九日日

其他要務処理

十日月 布陸二向ヶ出港

0697